

教室をひらけば授業がかわる



週案簿から始める授業改善支援資料集

目 次

- 1 この資料集を活用すると・・・ p 3
- 2 週案簿活用モデルとは・・・ p 4
- 3 週案簿の形式
 - 小学校・・・ p 5
 - 中学校・・・ p 7
- 4 週案簿活用モデルの活用の流れ・・・ p 9
- * コラム 授業リフレクションとは・・・ p 11
- 5 展開例
 - 自己リフレクションコース1・・・ p 12
 - 自己リフレクションコース2・・・ p 13
 - 対話リフレクションコース・・・ p 15
 - 集団リフレクションコース・・・ p 17
- * コラム 対話リフレクション実践例・・・ p 19
- 6 学校での活用にむけて・・・ p 20
- * 活用のための資料
 - 小学校の週案簿形式・・・ p 21
 - 中学校の週案簿形式・・・ p 23
 - 振り返り支援シート・・・ p 25
 - 授業参観シート・・・ p 26

1 この資料集を活用すると・・・

この資料集のねらいと、活用するとどのような効果が期待できるかを示しました。

学力向上は“授業づくり”からという認識を教師一人一人がもつことを求められています。また、学校や授業に対する地域や保護者の期待も多様化してきています。その期待に応えるためには、教師一人で対応するだけでなく、組織として協働しながら、学校や授業の改善に取り組む必要があります。

そこで、よりよい授業を目指し、子どもたちが確かな学力を身に付けることができるようにするために、週案簿をもとに授業づくりを進めるモデル(週案簿活用モデル)を作成しました。授業改善への取り組み方は多くありますが、このモデルは週案簿から始める方法について示したものです。

この資料集をもとに

授業を公開すると...

自らの授業を振り返ると...

週案簿を活用すると...

ともに気づき合い、
高め合う



授業がかわる

授業がわかる

子どもが成長し、教師も成長
する学びの場ができあがる

子どもの学びをつくりましょう

週案簿に着目したのは、それが日々の授業の計画や記録を記入するものであり、教師の成長につなげることができるからです。子どもの学びを見つめ、書くことによって記録として残していくことが指導力の向上や子どもの学びをつくりあげることにつながります。

計画的に進めることばかりに目がいて、肝心の子どもの学びの姿が見えにくくなっているようなとき、自分の授業を振り返り、そのことに気付くことができます。

2 週案簿活用モデルとは

下の図は授業構想とカリキュラム編成の流れに週案簿を位置づけて表したものです。この流れに沿って、よりよい授業を目指していく週案簿活用を「週案簿活用モデル」としました。

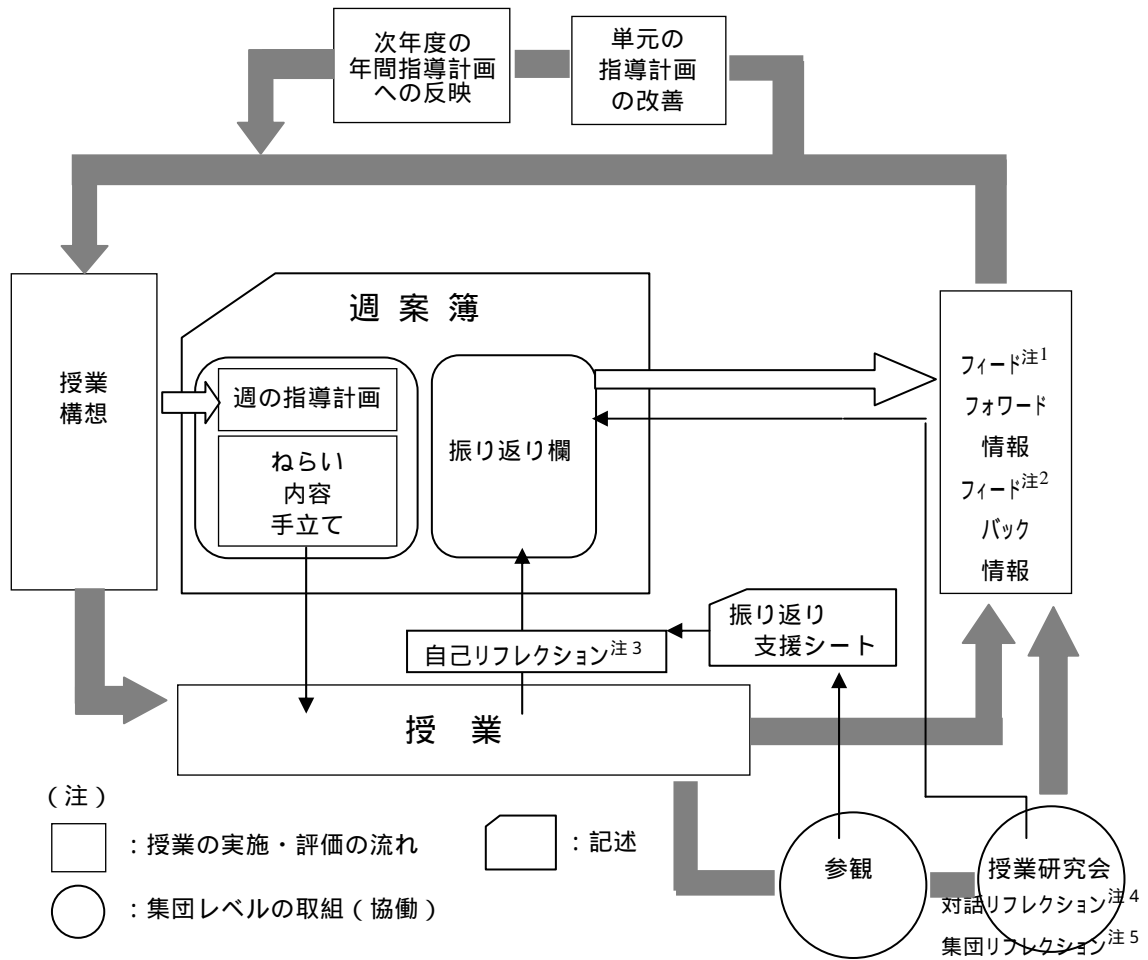


図 週案簿活用モデル

児童・生徒の学びの姿を見取って授業の振り返りを行い、その事実に基づき次の指導の手立てとして生かしていきます。それを継続し蓄積するために、週案簿の中に授業実施後の振り返り欄を設けました。

授業後に気になったことや気になった児童・生徒の言動、授業者自身が感じたことを、子どもの学びの事実をもとに週案簿に記述します。このような授業の振り返りを行うことを通して、次の授業の改善につながるフィードフォワード情報を得て、新たな手立ての投入へと生かしていきます。また、フィードバック情報を得て、単元指導計画等の改善に生かしていきます。

この「週案簿活用モデル」の活用を通して、子どもが成長できるとともに、活用した教師が児童・生徒理解を深め、自身の授業に対する考えや指導方法などを広げ、よりよい授業の実践につなげることができます。

注1：フィードフォワード情報とは先読み情報のことです。その情報から次の授業構想や新たな単元構想に生かしていくためのものです。

注2：フィードバック情報とは計画修正のための情報のことです。もう一度同じ実践をするときに、よりよい実践を行うためのものです。

注3, 4, 5：自己、対話、集団リフレクションについては、11ページに解説してあります。

3 週案簿の形式

小学校

「振り返り」を記入することが可能な週案簿形式を作成しました。

質的管理項目を盛り込んだ週案簿の形式を作成しました。「ねらい」「学習内容」「手立て」は、計画的で濃密な授業の実施のために記入することが必要になります。「振り返り」は、この欄に記入をすることが子どもの学びを注意深く見取ることにつながり、指導の改善に結びつけられます。

4年1組 第22週 10月18日～10月22日						
18日(月)		19日(火)		20日(水)		
予定						
第1時	社会 古い道具と昔のくらし 5/7 古い道具を体験し、感想を書くことにより、昔の人々の知恵に気付く。	国語 いろいろな符号 2/2 中点、ダッシュなどの符号の使い方を理解し活用することができる。	国語 グラフをもとに 1/6 グラフからの気付きを順序立てて書く学習であることを理解する。			
第2時	国語 いろいろな符号 1/2 句読点、かぎなどの符号の使い方を理解し活用することができる。	算数 ↓ 下欄	国語 グラフをもとに 2/6 読む人に分かりやすいかを考えて、工夫して文章を書く。			
第3時	算数 ↓ 下欄 本時を下欄に取り上げたことを示します	理科 もののかさと力 2/6 玉が遠くに飛ぶように工夫して空気でつぼをつくり、玉をとばしてみる。	体育 鉄棒運動 2/4 できそうな技に挑戦し技を組み合わせるなどして鉄棒運動を楽しむ。			
第4時	音楽 空き時間	学活 係活動をよりよくしよう 係活動を振り返り、これから自主的に取り組もうとする態度を育てる。	理科 もののかさと力 3/6 注射器に閉じこめた空気を圧してかさと手ごたえの変化を調べる。			
第5時	道徳 図書館で きまりを守る 安心して生活を送るための社会のきまりや約束を大切にしようとする。	図工 なんだかゾーン、心にキューン 5/6 伝えたい気持ちを込めているいろいろな表し方で絵に表す。	総合 みんなががってみな同じ 3/12 耳に障害を持つ人について知ることができる。			
第6時		図工 なんだかゾーン、心にキューン 6/6 伝えたい気持ちを込めているいろいろな表し方で絵に表す。				
算数科 単元指導計画 単元名 わり算						
第3校時 4/10		第2校時 5/10		第 校時 /		
ねらい	・÷何十(余り無し)を理解し、その計算ができる ・60÷20の計算方法を考える	・÷何十(余り有り)を理解し、その計算ができる ・90÷20の計算方法を考える ・「積・商」を知る ・図を用いて 60÷20=3をもう一度確認し、本時につなげる ・余り1の児童には図や模擬貨幣でわり算の意味を考えさせる		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> 従来の週案簿の部分 ・教科名を記入します。 ・単元名・第何時を記入します。 ・ねらいを記入します。 </div>		
内容 手 立 て	・硬貨や10枚束等で10単位の考え方を導く ・同内容でも発表させ、繰り返しにより理解を深める					
振り返り	N、Tは商に0をつけたず0をとった数だけ付け足すという既習の方法から脱せないためだろう T、Yにより多様な考えが示されたが6÷2の考えを深められなかった	Sは確認プリントからつまずき、いきなり模擬貨幣をつかわせたつまずきの原因は10円=1個の概念形成にいたらないためだ Nは理解は微妙だが、計算自体はできつつある		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 重点教科がない日には空欄となります。 </div>		

全ての時間について「振り返り」等を記入するのが理想ですが、小学校においては1教科を選択し、その教科について継続記入していく週案簿形式としました。振り返りのための欄を大きく設定し、また、時系列でつなぐことにより、同一の単元として捉えやすくなるようにしました。

		21日(木)	22日(金)
予定		第2校時 4年2組 算数 参観	
第1時	算数	下欄	国語 グラフをもとに 4/6 読む人に分かりやすいかを考えて、工夫して文章を書く。
第2時	音楽	空き時間	理科 もののかさと力 4/6 空気とくらべながら水を圧して、かさや手ごたえの変化を調べる。
第3時	国語	グラフをもとに 3/6 読む人に分かりやすいかを考えて、工夫して文章を書く。	体育 鉄棒運動 3/4 できそうな技に挑戦し、技を組み合わせるなどして、鉄棒運動を楽しむ。
第4時	社会	古い道具と昔の暮らし 6/7 昔の道具が今の何に変わってきているかをカードにまとめることができる。	算数 下欄
第5時	国語 硬	文字の中心・行の中心を知ろう 文字の中心・行の中心を理解して「火山」を書く。	総合 みんながってみな同じ 4/12 外部講師から話を聞いたり、手話を学んだりして障害について考える。
第6時			総合 みんながってみな同じ 5/12 外部講師から話を聞いたり、手話を学んだりして障害について考える。
		算数科 単元指導計画	わり算
		第1校時 6/10	第4校時 7/10
ねらい		・2位数÷2位数の計算方法を考える ・87÷21の計算方法を考える	・2位数÷2位数の計算方法を考える ・87÷21の筆算方法を考える
内容		・実態に応じて難易度に差を付けた課題を用意し自力解決へむかわせる	・1桁の筆算方法を確認し2桁の方法を考えさせる
手立て		・手のつかない児童には実物で商を導く	・ヒントカードで前時の復習を与え、一緒に考え理解を深め本時につなげる
振り返り		Nは課題プリントに順に取り組むことにより自力でできる部分が多かった Sはまだ理解不足 1束=10枚で説明してかえって混乱させてしまった	

リフレクションを支援する週案簿の部分

重点教科を決め、その教科名、単元名を記入します。校内研修にかかわって、または、個人の課題にかかわって、1教科を重点教科として決めます。1単元が終了したら他教科に変えるという方法も考えられます。

本日の校時の中で第何校時にあるのかを記入します。何時間扱いの単元の第何時かを記入します。

ねらい、内容、手立てを記入します。
・学習者主体の表現で本時のねらいを記入します。
・本時の主な学習内容について記入します。
・子どもの学びの姿をもとに、前時の授業を振り返った結果、本時はどのような方略を持って授業を構想するか、具体的な手立てを記入します。

授業後に振り返りを記入します。
・子どもの学びの姿、学びの事実を思い起こし、その中でも気になったこと、課題と感じたことを記入します。
・さらには、どうしてそうなったか、今までの子どもの学びの姿・事実を基に推測し、それらの理由や原因を記入します。

中学校

中学校は教科担任制であり、同内容の授業を複数回実施するので、
毎時間「振り返り」を記入することが可能な形式にしました。

		第 2 学期 第 10 週 11月 1日 ~ 11月 5日	
		1 日(月)	2 日(火)
行 公 参	事 開 観	B型授業変更	
		文化の日	
第 1 時	ねらい		月曜2校時に同じ
	内容 手立て 振り返り		2 1 数 学
第 2 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 2 数 学	・三角形の合同条件 P96~98 ・実際に三角形を作図することにより 三角形の合同条件を明らかにする あまり多くの描き方を出させなかったのが、返ってポイントが絞れてよ かったようだ あとは条件を何度 となく取り上げ定着を図りたい
第 3 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 1 数 学	・選択数学 P94~95 ・合同の図形の意味と性質 ・多くの問題を通して理解を深める 合同の図形の意味は紙を実際に 重ねてみせる所で定着した模様 記号については対応する頂点の 順であることを意識させる必要有り
第 4 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 2 技 家	・簡単な関数を用いて、気温のデータを処理する、 ・SUM関数、AVERAGE関数、 ・予めサンプルデータを用意し、数値入力を省き、 関数の扱いに集中できるようにする、 ・Bは個別に説明を聞いてわかった様子だ った、家で使っているパソコンとキーの配 列が異なるのでとまどっていたようだ、
第 5 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 1 技 家	同上 サンプルデータを用意したので、 Cも関数の扱いに集中して取り組 んでいた。
第 6 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 2 数 学	・表計算ソフトの基本操作ができる、 ・行、列、セル、ポインター 問題解決的な活動として、近隣 都市の気温の変化を扱う、隣の生徒と教えあう場面 を設定し、Bに自信を持たせたい、 ・Bはセルへの文字入力でとまどっ ていた。半角と全角の区別がつい ていないためと思われる。
第 6 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 2 技 家	同上 近隣都市の気温は、変化が捉え やすく、多くの生徒にとってはわか りやすかった。
第 6 時	ねらい		
	内容 手立て 振り返り	2 2 数 学	・選択数学 P99~100 ・合同条件を利用し、図形の中より 合同な図形をみつけ説明し、証明 としてまとめる。 合同条件の間2で、仮定が角・辺 でいいことに気づかせられなかつ た。学習目的をはっきりさせたい、

ねらい、内容、手立て
を記入します。
・学習者主体の表現で本
時のねらいを記入しま
す。
・本時の主な学習内容に
ついて記入します。
・子どもの学びの姿をも
とに、前時の授業を振り
返った結果、本時はどの
ような方略を持って授
業を構想するか、具体的
な手立てを記入します。

授業後に振り返りを
記入します。
・子どもの学びの姿、学
びの事実を思い起こし、
その中でも気になった
こと、課題と感じたこ
とを記入します。
・さらには、どうしてそう
なったか、今までの子ども
の学びの姿・事実を基に推
測し、それらの理由や原
因を記入します。

				校長印								
		4日(木)		5日(金)		時数集計						
行	事	参観 3校時 1-1数学 A教諭						年	教	予	実	累
公	開							組	科	定	施	計
参	観											
第1時	ねらい	1	<ul style="list-style-type: none"> ・必要物を収納する制作とする。 ・CADソフトの基本操作がわかる。 ・お互いの発表を参考に自分の考えをふくらませる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・CADソフトを操作し設計できる。 ・CAD操作の確認。 ・作品集の利用、操作ポイントの揭示。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品集を利用すると、影響が大きくなり、人のまねになり、自分の考えがとんでしまう。 					
	内容											
第2時	ねらい	2	<ul style="list-style-type: none"> ・選択技術 制作品の仕上げ塗り、ニス塗り、オイルフィニッシュ ・オイルフィニッシュはファイバーテックスを併用させ、なめらかな表面作りをさせる。 	2	同左	1	<ul style="list-style-type: none"> 1組も遅れている生徒は、ヤスリがけが中途半端で、塗装に進ませるには課外の時間が必要。 					
	内容											
第3時	ねらい			2		2	<ul style="list-style-type: none"> ・証明の書き方をパターンとして覚える。P102~103 ・穴埋め問題を活用する。 					
	内容											
第4時	ねらい	2	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の中から合同な図形をみつける 									1週間の振り返り
	内容											
第5時	ねらい	2	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の合同を利用した証明の例題 ・仮定と結論の説明 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・証明の進め方 P101~102 ・証明の進め方を利用し、穴埋め問題等を通して描き方を覚える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> プリントを2枚行ったことでテンがよく授業が進んだ。 また、Kが積極的に発言した。 					
	内容											
第6時	ねらい											
	内容											
	手立て											
	振り											
	返り											

行事・公開・参観
・行事予定、授業変更などを記入します。また、他の教師に公開する授業を書き出します。公開する授業については教科名の欄に印などを付けておきます。

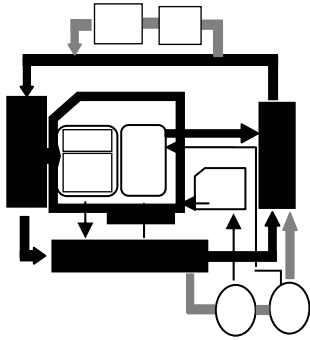
記入上の注意
ねらい、内容、手立てについては特に区切りを設けていません。文例のように分けて書いても混在させて書いてもかまいません。

この週案簿の活用を支援するソフトウェアが、総合教育センターWeb ページよりダウンロードできます。

4 週案簿活用モデルの活用の流れ

「週案簿活用モデル」をどのように活用する流れがあるのか、活用する部分を図の中で黒く表し、活用の流れを説明しました。

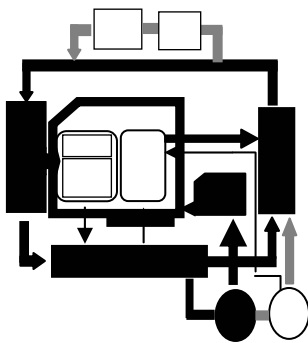
自己リフレクションコース1 授業構想→授業→フィードフォワード情報→授業構想



- ・授業者自身が授業構想後、週案簿に次週の指導計画を記入する。
- ・授業実施後、自らの見取りや児童・生徒のノート等をもとに自己リフレクションを行い、週案簿の振り返り欄に記入する。
- ・それをもとに改善に取り組み、フィードフォワード情報として次時以降に生かす。

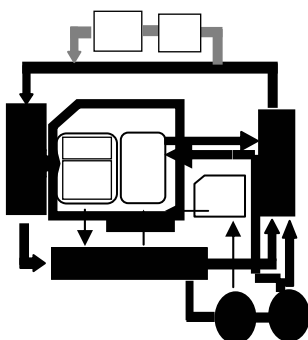
自己リフレクションコース2 授業構想→授業(参観)→フィードフォワード情報→

授業構想



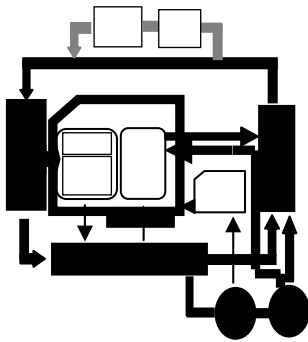
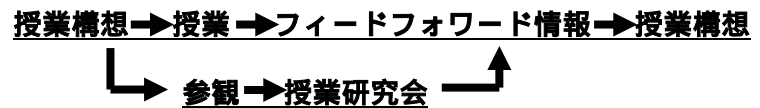
- ・授業者自身が授業構想後、週案簿に次週の指導計画を記入する。
- ・授業を公開し、同僚教師が参観を行う。
- ・同僚教師が、参観後に有効な情報提供をしていく。
- ・授業実施後、自らの見取りや児童・生徒のノート、同僚教師の意見等をもとに自己リフレクションを行い、週案簿の振り返り欄に記入する。
- ・それをもとに改善に取り組み、フィードフォワード情報として次時以降に生かす。

対話リフレクションコース 授業構想→授業→フィードフォワード情報→授業構想



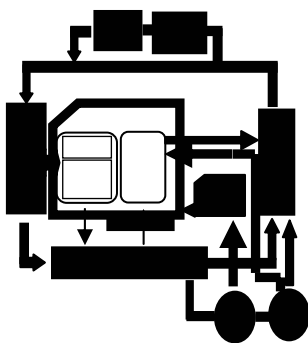
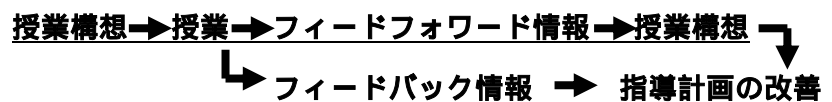
- ・授業者自身が授業構想後、週案簿に次週の指導計画を記入する。
- ・授業を公開し、同僚教師が参観を行い、抽出児童の学びの姿等を記録する。
- ・授業実施後、自らの見取りや児童・生徒のノート等をもとに自己リフレクションを行う。そして、授業研究会や学年会において対話リフレクションを行い、週案簿の振り返り欄に記入する。
- ・それをもとに改善に取り組み、フィードフォワード情報として次時以降に生かす。

集団リフレクションコース



- ・ 授業者自身、または同僚とともに集団で授業構想後、週案簿に次週の指導計画を記入する。
- ・ 授業を公開し、同僚教師が参観を行う。
- ・ 授業実施後、自らの見取りや児童・生徒のノート等をもとに自己リフレクションを行う。そして、授業研究会において集団リフレクションを行い、週案簿の振り返り欄に記入する。
- ・ それをもとに改善に取り組み、フィードフォワード情報として次時以降に生かす。

指導計画改善コース



- ・ 授業者自身、または同僚とともに集団で授業構想後、週案簿に次週の指導計画を記入する。
 - ・ 授業実施後、自らの見取りや児童・生徒のノート等をもとに自己リフレクションを行う。また、授業研究会等において対話リフレクションや集団リフレクションを行い、週案簿の振り返り欄に記入する。
 - ・ それをもとに改善に取り組み、フィードフォワード情報として次時以降に生かす。
- ・ 1 単元についてそれらを繰り返し、週案簿に記録を蓄積していくことにより、単元の指導計画の改善を行う。
 - ・ また、フィードバック情報として、計画の修正に役立てる。
 - ・ それをもとに次年度の年間指導計画に反映させる。



コラム 授業リフレクションとは

この資料集における「授業リフレクション」について解説しました。

「授業リフレクション」とは、教師が自分の授業実践を反省的に考察する授業研究の方法です。授業中に見られた子どもの事実（発言や、態度、ノート等）から学びを解釈（「なぜ」その事実が起きたのかを考える）し、自分の授業を振り返る方法で、次の3種類があります。具体的な進め方については12ページ以降の「展開例」に示しました。

自己リフレクション

自分一人で自分の授業を振り返る方法です。思いつくまま振り返りますが、気になったこと等について自身の見取りや子どものノート等から考えます。



対話リフレクション

2人ないし3人で対話をしながら進める方法です。授業を参観した者が授業者に質問しながら、授業者自身の振り返りを促進します。



集団リフレクション

同僚教師と協働で実施する方法です。焦点化した場面について参観者が授業者に質問しながら、授業者自身の振り返りを促進します。

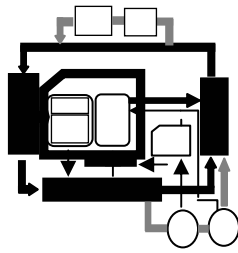


注：「自己リフレクション・対話リフレクション・集団リフレクション」についての記述は「成長する教師 教師学への誘い」 浅田匡・生田孝至・藤岡完治編著、「シリーズ 新しい授業を創る5 授業で成長する教師」 藤岡完治・澤本和子編著 を参考にまとめています。

5 展開例

自己リフレクションコース1

授業者が個人で「リフレクション」を進める例です。



授業構想

授業

自己リフレクション

フィード
フォワード情報
授業構想

子どもの学びの事実をもとに、どのような手立てを投入すれば本時のねらいを達成できるか考え、授業を構想し、週案簿に記入します。

		第 2 学期 第 10 週 11 月 1 日 ~	
		4 日 (木)	5 日 (金)
第 2 時	ねらい		
	内容	2 ・表計算ソフトの基本操作ができる。 ・行、列、セル、ポインター ・問題解決的な活動として、近隣都市の気温の変化を扱う。隣の生徒と教えあう場面を設定し、Bに自身を持たせたい。	2 ・簡単な関数を用いて、気温のデータを処理することができる。 ・SUM関数、AVERAGE関数。 ・予めサンプルデータを用意し、数値入力を省き、関数の扱いに集中できるようにする。
	手立て	2 技家	2 技家
	振り返り		

子どもの学びの姿を見取ります。

授業後、自己リフレクションを行い、「振り返り」欄に見取った子どもの学びの事実を記入します。

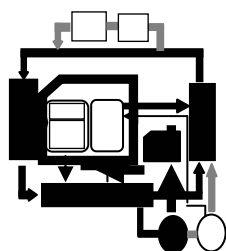
この資料における自己リフレクションの方法

- 1 実施した授業について思いつくまま振り返ります。
- 2 気になった点やよかった点、こだわり、納得いかないこと等を洗い出します。
- 3 2について、自身の見取りや記録、子どものノートや感想等から考えます。
- 4 3で考えたことから結論を導き、自らも納得できたとき、自己リフレクションを終えます。

自己リフレクションを行った結果、得られた情報をフィードフォワード情報として次時の手立てに生かします。前週、週案簿の「ねらい、内容、手立て」欄に記入しておいた手立てを訂正しながら、子どもの学びの事実に近い有効な手立てとして授業を構想していきます。

		第 2 学期 第 10 週 11 月 1 日 ~	
		4 日 (木)	5 日 (金)
第 2 時	ねらい		
	内容	2 ・表計算ソフトの基本操作ができる。 ・行、列、セル、ポインター ・問題解決的な活動として、近隣都市の気温の変化を扱う。隣の生徒と教えあう場面を設定し、Bに自身を持たせたい。	2 ・簡単な関数を用いて、気温のデータを処理することができる。 ・SUM関数、AVERAGE関数。
	手立て	2 技家	2 技家
	振り返り	・Bはセルへの文字入力でもまどっていた。半角と全角の区別がついていないためと思われる	・半角と全角の区別について最初に一言指導で補足し、Bには編集作業のときに個別指導をす

自己リフレクションコース2



授業者が個人で「リフレクション」を進める例です。「1」と違う点は、授業を公開し、同僚教師に参観してもらおうという協働体制が必要なことです。

授業構想

個人活用の例と同様に子どもの学びの事実をもとに、どのような手立てを投入すれば本時のねらいを達成できるか考え、授業を構想し、週案簿に記入します。

授業

同僚教師に授業を公開し、参観してもらいます。参観の際に、本時のねらい等を記入した週案簿を同僚教師に公開すれば、それが簡略化した指導案となって、参観者の参考になります。

参観者が集まって授業を検討することは大事ですが、その時間をとりにくいのが学校の現状です。そこで、同僚教師が参観時に記入し、授業後に授業者に渡すためのシートとして「振り返り支援シート」を作成しました。

休み時間や放課後等にその授業について話し合う時間があれば、このシートをもとに行い、その時間がなければ渡すことにより参観者の意見等を伝えるためのものです。授業者だけでなく、参観者が評価すれば、授業者の気づかないことを指摘できたり、児童の学びの姿を客観的に見取ったりすることができ、さらに有効な振り返りができます。また、参観者の意見によって自己課題解決への手がかりが得られることも考えられます。



振り返り支援シートの活用

自己リフレクション

「展開例1」の自己リフレクションの方法において、授業データに授業者の見取りや気づきだけでなく、参観者の見取りを加えて自己リフレクションを行います。そして、「振り返り」欄に見取った子どもの学びの事実を記入します。

フィード
フォワード情報
授業構想

個人活用の例と同様に、得られた情報をフィードフォワード情報として生かして授業を構想し、週案簿に記入します。

振り返り支援シート

「振り返り支援シート」の形式と記入例を示しました。

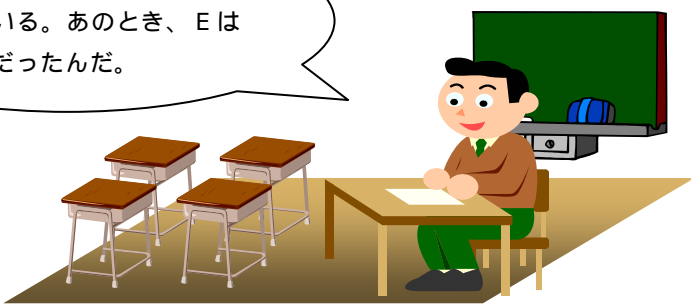
12月 3 日(木) 第 5 校時	4 年 3 組 教科名 算数	授業者名 A	参観者名 B
本時のねらい 互いに考えた複合図形の求積方法を分類することで類似点や相違点に気付き、 図形の求積について考え方を広げる。			
群の手立て		群の手立て	
多様な求積方法の発見ができるよう、異なった求積方法を考えた人と話し合わせる。		発表のあった求積方法を分類するために、色紙などで図示し、視覚的に捉えられるようにする。	
児童・生徒の学びの姿		児童・生徒の学びの姿	
Cはグループにおける話し合いで中心となって、活動していた。自分の求積方法を紹介した後で、「こういう方法もあるんだ。」とつぶやきながら友達の意見を聞いていた。また、ノートに書いてあるのに発言できないDには「代わりに言ってもいい。」と聞いてから、Dの意見をグループのみんなに伝えていた。		Eは、FやGの発表内容に首をかしげながら聞いていた。図形を分割する求積方法は理解できても、全体から部分を引くという考え方はよくわかっていなかったようだった。そのためグループ内で確認し合うときは難しそうな顔をしていた。しかし、色紙によって操作をして見せてもらったことによって理解していったようだった。	

本時のねらいや手立ては、公開授業前に授業者から伝えておきます。伝え方には直接話す、週案簿の公開等が考えられます。

手立てを2つに分けて記述するようにしたのは、個に応じた指導を心がけるためです。実態に応じた適切な手立てを投入することにより、児童・生徒が学習事項を習得でき、本時のねらいに迫れるようにしていきます。

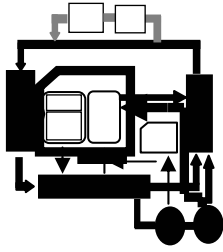
本時のねらいを達成するための手立てを用いて授業した結果、児童・生徒の学びがどのようなであったか、参観者が見取って記述します。

B先生のシートには と書かれている。あのとき、Eは だったんだ。



対話リフレクションコース

授業者を含めて2～3人で「リフレクション」を行うときの例です。



授業構想

個人活用の例と同様に子どもの学びの事実をもとに、どのような手立てを投入すれば本時のねらいを達成できるか考え、授業を構想し、週案簿に記入します。

特に小学校において授業後の研究会を想定した授業構想の場合は、授業者だけで考えるのではなく、学年の教師全員で考えます。ブレインストーミングやKJ法等により意見を出し合います。出された意見は参考にし、最終的には授業者が授業を構想し、週案簿に記入します。

学年会で話し合うポイントとしては、

- ・授業者の課題
- ・教師の願い
- ・児童の実態
- ・教材の解釈
- ・手立て
- ・抽出児童

等があげられます。



学年会で事前検討を進めるのは、全員が同一の教材について授業をする立場にあるからです。

ブレインストーミングやKJ法等により意見を出し合うのは、経験の多少によらず、色々な意見を短時間に出し合うためです。

ブレインストーミングとはアイデアを導き出すために、集団で自由に考えを出し合いながら進める手法です。

KJ法とはブレインストーミングなどで思いついたアイデアをカードにして並べ、それらのまとまりの意味を考えてよりよいアイデアへ収束させるという手法です。

授業

授業者は、子どもの学びの姿を見取ります。

参観者は児童・生徒の学びの姿を見取ったり、授業を通して気付いたことをメモしたりします。事前の学年会をもった場合は、抽出児童を中心に見取ります。また、事後の研究会において画面を見ながら進めるために、ビデオカメラで撮影する方法もあります。



対話
リフレクション

授業後に、まず授業者が「自己リフレクションコース1の展開例」で示した自己リフレクションを行います。その後、同僚教師がプロンプター^{注6}として対話リフレクションを進めます。

この資料集での対話リフレクションの方法

- プロンプターの心構えと役割 -

・授業者の自己リフレクションをさらに深めること目的として進行するように心がけます。

1 授業者からの感想を聞くことから始めます。

2 感想を始まりとして質問をしたり、プロンプター自身が授業中に気になったことを授業者に質問したりします。基本的に「なぜ～という支援をしたか」「なぜ～という場を設定したのか」と「なぜ」を繰り返します。

3 授業者に質問することを通して、授業者自身の内面を引き出し、振り返りを促進します。

・「なぜ」とプロンプターに繰り返し問われることで、授業者は自分が責められているように感じる可能性があります。プロンプターは肯定的な発言によって授業者の内面を引き出すように心がける必要があります。



注6：プロンプターとは「促進者」という意味であって、授業者が自分の授業について語るのを促進する役割を担います。

プロンプターに関する記述は、神戸大学発達科学部附属幼稚園、附属明石小学校、附属明石中学校「平成14年度研究開発実践報告書『社会を創造する知性・人間性』を育むことをめざした新しい教育システムの開発・第3年次」を参考にまとめています。

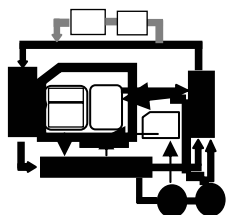
フィード
フォワード情報
授業構想

個人活用の例と同様に、得られた情報をフィードフォワード情報として生かして授業構想を行い、週案簿に記入します。

19ページに、対話リフレクションを実際に行ったときのプロンプターと授業者の会話の記録を掲載してあります。

集団リフレクションコース

授業者を含めて4～7人で「リフレクション」を行うときの例です。



授業構想

授 業

個人活用の例と同様に子どもの学びの事実をもとに、どのような手立てを投入すれば本時のねらいを達成できるか考え、授業を構想し、週案簿に記入します。

学年会での活用例のように複数の教師で授業を構想することも考えられます。

授業者は、子どもの学びの姿を見取ります。

また、授業データの精度を高めるために、2台のビデオカメラを教室の前後に配置して撮影するとよいです。

参観者は、学年会での活用例と同様に児童・生徒の学びの姿を見取ったり、授業を通して気づいたことをメモしたりします。メモは事後の研究会で活用しやすいように付箋紙に記入しておきます。その付箋紙を本時の流れに沿って、「授業参観シート」に貼付します。



授業参観シート

月 日 ()		NO				
年 組	教科		授業者		参観者	
ねらい						
内容						
手立て						
抽出児童・生徒						
本時の流れ	付箋紙貼付欄				メモ	
<導入>	付箋紙の左上に小さく時刻を記入 抽出生徒やクラス全体について生徒の発言やつぶやき、その他の動きで気になったことや感じたことを記入する					
<展開>						
<まとめ>						

集団
リフレクション

授業後に、まず授業者が自己リフレクションを行います。その後、同僚教師がプロンプターとして集団リフレクションを進めます。

本資料における集団リフレクションの方法

- プロンプターの役割 集団リフレクション前 -

- 1 授業前に授業者から「本時の流れ」を聞き、授業参観シートに記入して参観者に配布しておきます。
- 2 参観して記入した授業参観シートを回収し、参観者の授業観について理解を深めておきます。

- プロンプターの役割 集団リフレクション中 -

- 1 授業参観シート（拡大コピーしたもの）の「本時の流れ」に付箋紙を貼付し、検討場面を焦点化します。
- 2 授業を参観していない参加者がいる場合や、授業場面を確認したいときには、ビデオを視聴してもらいます。
- 3 参加者の授業観を踏まえ、授業者の振り返りを促進するように進行します。また、これを通して参加者が自身について振り返ることができるように進行します。

フィード
フォワード情報
授業構想

個人活用の例と同様に、得られた情報をフィードフォワード情報として生かして授業構想を行い、週案簿に記入します。



集団リフレクションを 実践した後での感想

- 1 集団リフレクションを行った後で、授業者にリフレクションについて感想を聞いてみました。
 - ・自分がこれから何をしていきたいかがはっきりとしました。
 - ・子どもの色々な見方、授業に対する色々な考え方を知ることができ、参考になりました。
- 2 集団リフレクションを行った後で、参加者に感想を聞いてみました。
 - ・付箋紙に書いた後で、自由に移動させて使えるところがいいです。
 - ・授業参観シートに付箋紙を貼ることにより、課題を見つける時間が省け、焦点化をすることができました。
 - ・付箋紙がなぜここに集中していたのか、理由を考えながら進めることが大事だと思います。
 - ・子どもの表情を追って撮影したビデオは、振り返るのに有効だと思います。
 - ・自分はこういう視点で見てたけれど、あの先生はああいう視点で見てたんだと自分と違った視点を確かめるのによかったです。

コラム 対話リフレクション実践例

実際に対話リフレクションを行ったときの会話の記録です。対話リフレクションのイメージをつかむことができます。

P：プロンプター　　T：授業者

P「どうですか、授業をやったあとの全体的な感想としては？」

T「自分のやろうとしたことはだいたいできたかなというふうに感じました。」

P「どのへんからそう感じたのですか？」

T「 を暗誦できるっていう生徒が、もっと少ないかなと思っていたのに、6名覚えられたということからです。1名だけ最初の1文目まで覚えられなかったんですが、その生徒も一生懸命練習したり、私のところにテストを見せにきたりしていたので、自分のねらいとしては達成できたと思います。」

P「1名という話がでましたけど、その1名合格をしなかった生徒はだれですか？」

T「A君です。」

P「いろいろ苦労しながら何回もやっていたという感じがしたんですけど、普段に比べてどうでしたか？」

T「普段と比べると、かなり活発だったと思います。」

P「先生なりに、下位の子にも授業に参加できるようにということで、その子たちにも応じられるような目標にしたということですね。」

(中略)

P「Bさんは一生懸命ノートをとっていたんですよ。あの子はわたしから見ると、高い目標に挑んでいたと思ったんですけど。先生はどうですか？」

T「そうですね。できた子にはその先にある目標に向かわせるので、合格した子もだれないということにもつながると思います。」

(中略)

P「今日特にここは子どもがよく反応したなという場面がありましたか？」

T「はい、黒板の文を消して読ませたところで、ちょっと難しいって感じてしたが、むしろ盛り上がってきて、そこがうまく生徒がのってきたなと思いました。」

P「そうですね。あそこで難しくなったのに…。あれは見てて一生懸命子どもはやっているな、そういう授業づくりをしたなと思いました。」

T「初めから難しいとのってこなかったり、投げてしまったりする生徒がいるので、下位の子ものせながら引き連れていくと後半にかけて盛り上がりができるかなというふうには意識してるんですが、なかなかできません。」

(中略)

P「もし、今の時点で週案簿にふり返りの欄があってそこに書くとしたら、どのように書こうと思いますか？」

T「下位の子、上位の子ともに参加できた。これを2・3時間目で生徒をがっかりさせることなく続けられるといい。」

(中学校1年「国語科」)

6 学校での活用にむけて

「週案簿活用モデル」を学校に導入するための方法例を示しました。

「週案簿活用モデル」を学校に導入するためには、例えば「授業改善委員会」のような組織を中心に、週案簿活用体制、授業公開・参観体制づくり、授業研究会等について具体的に企画運営していくことが必要になります。

その組織において企画提案する場合の内容例について示しました。

週案簿の活用については、記録を蓄積していくことにより子どもの成長が感じられるようにすることが重要です。

また、「授業改善委員会」が週案簿自体(計画段階)を公開することにより授業の公開・参観に役立てる提案をしたりすることが考えられます。

週案簿の公開方法としては、職員室壁面の利用や校内LANの活用が考えられます。

授業の参観を促進するための方策としては、「授業改善委員会」を中心に空き時間を新たに生み出す方法を考えて参観することが考えられます。

専科教員や教務主任、教頭等に授業を依頼したり、授業交換をしたりして空き時間を生み出して参観につなげる体制をつくるなどがその方法として考えられます。

また、授業研究会を第3月曜日の放課後というように予め設定しておくことが望ましいです。

授業の公開を促進するための方策としては、「授業改善委員会」が授業前の指導案作りや準備の負担を軽減することを提案するとともに、授業者が「公開してよかった、課題解決の糸口が見えた」といった成果が感じられるようにすることなどが考えられます。

以上のような例を参考に、各学校の実態に応じてこの「週案簿活用モデル」が活用され、子どもの学びをつくることにつなげていくことができたらと考えます。



資料

小学校の週案簿形式

年		組		第		週		月		日		~		月		日	
		日(月)				日(火)				日(水)							
予	定																
第	1																
第	2																
第	3																
第	4																
第	5																
第	6																
		科		単元指導計画				単元名									
		第 校時				第 校時				第 校時							
ね	ら																
い	内																
手	立																
振	返																
り	り																

			校長印			
	日(木)	日(金)	時数集計			
予定			教科 科	予 定	実 施	累 計
第1時			国語			
			社会			
			算数			
第2時			理科			
			生活			
			音楽			
第3時			図工			
			家庭			
			体育			
第4時			道徳			
			特別活動			
第5時			児童会			
			クラブ			
			学校行事			
第6時			総合的な学習			
			総計			
科 単元指導計画			1週間の振り返り			
	第 校時	第 校時				
ねらい						
内容 手立て						
振り返り						

資料

中学校の週案簿形式

		第 学期		第 週		月 日 ~		月 日	
		日(月)		日(火)		日(水)			
行 公 参	事 開 観								
第 1 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								
第 2 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								
第 3 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								
第 4 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								
第 5 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								
第 6 時	ねらい								
	内容								
	手立て								
	振り 返り								

				校長印				
		日(木)	日(金)	時数集計				
行 公 参	事 開 観			年 組	教 科	予 定	実 施	累 計
第 1 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							
第 2 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							
第 3 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							
第 4 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							
第 5 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							
第 6 時	ねらい			/				
	内容							
	手立て			/				
	振り 返り							

1週間の振り返り

資料

振り返り支援シート

月 第	日() 校時	年 組 教科名	授業者名	参観者名
本時のねらい				
.....				
群の手立て			群の手立て	
児童・生徒の学びの姿			児童・生徒の学びの姿	
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

資料

授業参観シート

年 組	教科	授業者	参観者
ねらい			
内容			
手立て			
抽出児童・生徒			
本時の流れ	付箋紙貼付欄(付箋紙の左上に小さく時刻を記入) (抽出児童・生徒やクラス全体について、児童・生徒の発言やつぶやき、その他の動きで気になったことや感じたことを付箋紙に記入してください。)	メモ (自由にご活用ください)	
<導入>			
<展開>			
<まとめ>			